

One Planet Paper News

アフリカのバナナペーパー - 「紙以上の紙」を目指して January 2012 Vol. 01



One Planet Cafeザンビアのチーム



アフリカの現地レポート



今月のバナナパートナー

Banana Paperニュース 1号

今年から、毎月定期的に私たちのバナナペーパーに関連するニュースレター「One Planet Paper News」をお届けします。バナナペーパー作りを行うアフリカ・ザンビアからの現地レポート、ペーパーを導入したバナナパートナーズ(お客様の紹介、そして「紙以上の紙」を目指して、このOne Planet Paper Newsを通じ、お互いのサポートができればと思っています。



One Planet Cafe 東京

www.oneplanetcafe.com
info@oneplanetcafe.com

Tel 080-5528-2656



One Planet Cafe ザンビア
サウスルアングワ国立公園
Mfuwe村

In Africa: 現地レポート

"It's very much possible"

One Planet Paperのバナナペーパーに使われている繊維は、アフリカの国ザンビアの小さな村で生産しています。村の名前はエンフエ(Mfuwe)です。正確な人口は誰も分からない、といった村ですが、生物多様性においては、この地域はアフリカで最も豊かな地域の一つです。村の近くにはエキサイティングなサウス・ルアングワ国立公園があり、60種類以上の野生動物(哺乳類)と何と400種類以上の美しい野鳥が自由に生きています。エンフエ村は色々な意味で、典型的なアフリカの村です。多くの家はわら屋根と粘土でできており、面白い形のバオバブの木やサバンナの風景が広がります。車はまだ珍しいため、車が村に入ると、子どもたちは遊んでいる手を止めて必死に手をふり車を追いかけてきます！一方で、貧困は大きな課題です。アフリカの人口の約半分が1日に100円以下しかえられず、水は家から離れた井戸水、ほとんどの家には電気に通っていません。食べ物や栄養バランス不足、HIV/AIDSやマラリアで平均寿命は日本の約半分です。学校へ行ったことがない大人も多く、自分達に降りかかる問題の解決策を見つけ出せずに、貧困から抜け出せないという現状があります。この様な状況にも関わらず(または、だからこそ?) 前向きな人も多い... One Planet Cafeザンビアの共同代表で、バナナペーパーの現地マネージャーであるBilly Nkhoma (ビリーさん) はエンフエ村に住む、国立公園公式認定ワイルドライフガイドです。現地を訪れる観光客や研究者向けに、国立公園の素晴らしい野生動物や自然を案内します。トレードマークは、いつも元気な笑い声と前向きな行動力。そして口ぐせは「It's very much possible (もちろんとても可能)！」▶▶



ビリーさん

▶▶▶ Billyさんの積極的な姿勢に私たちはいつも感心するばかり。実は、私たちのバナナペーパーは出来上がるまでに、先進国では考えられない沢山のチャレンジがありました。例えば、村で唯一のガススタンドではしばしば燃料がなくなったり、手に入ってもその値段はなんと、250円/リと高額。作業場に電気をひいてくるにも、申し込みから電気が実際に使えるまでに1年近くかかりました。日本からパッケージを郵送しても、届くまでに数ヶ月(航空便)。日本からの国際送金は、村の銀行までデータは来ているものの、お金(キャッシュ)がなく、担当者も「今日は現金がないのでまた明日」の一点張り。翌日も、その翌日も「今日も現金がない。来週ごろ本店から届くはず」の対応...

このような状況は、BOPペナルティと言われていました(貧困だからこそ被る不利益)。村の人は、貧困から抜け出したいくても、先進国と同じモノやサービスを手に入れるためには、先進国に住む私たちより数十倍高い価格を支払う必要があり、負の連鎖から抜け出しにくいという状況です。こんな環境の村から、私たちのバナナペーパー(繊維)は生まれています。

トレスビリティやサプライチェーンづくりが成功した最も大きな理由の一つはBillyさんの前向きな「It's very much possible」の言葉!そして

日本のパートナーである皆さんの素晴らしい応援のお陰です。



In Japan: 今月のバナナパートナー紹介

日新堂印刷株式会社



阿部さん(右)とOPCのペオ

初回のOne Planet Paper Newsでは、日新堂印刷株式会社の社長である阿部晋也さんを紹介しました! アフリカバナナペーパーを日本へ導入したきっかけとなったのは、ザンビアのピリーさんと日本の阿部さん。初めて阿部さんに会った時(2010年)に「ザンビアの村ではオーガニックバナナ畑がたくさんある。貧困や森林伐採、そして野生動物減少の解決の一つはバナナペーパーだ」と話したところ、阿部さんが「ぜひ日本でそのバナナペーパーを広げよう!」と背中を押してくれました。今回は、その阿部さんのインタビューをお届けします。

OPC: なぜ紙業界を選んだのですか?

阿部さん: もともとオフィスで使用する印刷物を取り扱う印刷会社(封筒、チラシなど)でしたが、10年ほど前から人と人が最初に出会う際に使用する大切

なツール「名刺」に力を入れ始めました。各企業がCSRや環境問題へ積極的に力を入れ始めたところでしたが、ある飲料メーカーからのオーダーをきっかけにあらゆるエコ素材の名刺を展開するようになりました。

OPC: 仕事の一番のやりがいは?

阿部さん: やはりお客様が弊社の製品を使用して出会いが広がったり、お客様同士がつながること。そのご縁の輪がどんどん広がっていくときに笑顔とともに感謝されます。

OPC: 日新堂社の環境活動とは?

阿部さん: 企業の存在自体がソーシャルビジネスにつながるよう、例えば弊社では営業車両は100%電気自動車を使用しています。仕事を通して電気自動車普及サイトの運営も行っています。(北海道の電気自動車サイト <http://ev-c.jp/>) また、会社の売上の1%を「1%フォーザプラネット」を通して、地球環境保全活動へ募金しています。

OPC: 最後に、現地のエンフエ村のバナナチームに聞きたいことは?

阿部さん: ザンビアの皆さんには本当によくがんばっていただき、感謝しています。皆さんの将来の夢は何ですか?

それを叶えるために一緒に仕事を通して頑張りたいです。

→ 阿部さんの質問をさっそくザンビアのバナナチームへ伝えました。チームリーダーであるSusanさんの答えは次の通り。



スーザン

"バナナペーパープロジェクトがもっと成長して、村の私たちがフルタイムの安定した仕事が入ることは私たちの夢の一つです。そして

バナナペーパーのおかげで、教育不足の私たちが、いろんな教育を受けられるようになるのが私たちの夢です。"



Name 日新堂印刷(株) 阿部晋也様

Place 札幌市

Biz 名刺や用紙の印刷

Team 6人

Hobby 山登り,サーフィン

Web www.nissindou.co.jp